


たが

こんにちは 
議会です!!



暑さをぶっとばせ!! たなばた飾り

- ・ 6月定例議会 2
- ・ 各常任委員会報告 3
- ・ 一般質問 9議員が問う 6
- ・ たがとともに 12

第130号

平成23年8月1日発行
発行多賀町議会
編集議会広報常任委員会

滋賀県犬上郡多賀町大字多賀324
〒522-0341 ☎ 0749(48)8126
FAX 0749(48)0157
有線 2-2011

ホームページ <http://www.tagatown.jp>
E-mail gikai@town.taga.lg.jp



小学校の参観

総務

NHK全国ラジオ体操

8月22日開催
町民グランド

所管事務調査 教育委員会

5月23日、教育委員会所管の各教育施設の視察、調査を行い、23年度の教育方針、学校経営管理計画と事業の概要などの説明を受け、質疑をした。

問 教育委員会の職員数は105人であるが、正職員、臨時などの内訳は、
答 正職員 46人
臨時職員 51人
嘱託職員 5人
非常勤講師 3人

問 四手区の小学生に通学バスの考えは、
答 距離的に3kmが目安である。他集落のこともあり総合的な見直しが必要で、検討する。

問 中学生で髪の毛を染めている生徒がいるが指導は、
答 常に指導している。最近では少なくなっている。

問 小学生で髪の毛を染めている生徒がいるが指導は、
答 常に指導している。最近では少なくなっている。

問 ささゆり保育園の定員は160人である。
答 待機児童はいるのか。
答 0歳児から2歳児で待つてらっている。最近0歳児が増えている。

問 待機児童がいるのは問題であり、対策は、
答 保育士が不足している。求人しても応募者が少ない。

問 入園の希望があれば対応は必要である。
答 男女共同参画の社会の中で仕事で保育ができない。また時間があっても保育できない親など様々である。今後の検討課題である。

議会広報
兵庫県豊岡市議会、広報委員会の研修受け入れ
4月25日、議会広報特別委員会の8人の委員が来町された。
本町も委員長、議長、副議長、委員の7人で研修、意見交換を行った。
豊岡市議会広報の印象は、県内各市と同様、型にはまった企画が多く、また大きな市ほど職員の間とが多いように感じた。本町の議会広報で特に

第127号で、採決の賛否の数のほか賛成者、反対者の氏名の掲載でした。一般質問の紙面レイアウト、質問、答弁の記事にも関心を持たれていた。豊岡市議会広報は、質問はもとより陳情、要望書の賛否も掲載され、また一部事務組合の議会内容も掲載されている。この問題は議会改革の中で議員全体で議論していきたい。
今回、議会広報に関する住民アンケートを行い、事業評価、満足度を検証する。



ギターを使ったユニークな英語の学習

芹谷地域振興 知事に意見書

定例議会は、6月10日から21日までの日程で開催。諮問、補正予算、条例、承認、報告、請負契約など23件を審議し、可決した。請願2件を採択し、意見書を可決した。

6月定例議会

諮問
人権擁護委員
敏満寺 若林 幸雄氏 65歳
樋田 藤澤 道子氏 62歳
久徳 近藤 友子氏 62歳

23年度補正予算
一般会計の主なもの
・ 大字猿木消防ポンプ 160万円
・ 小学校、図書館臨時職員賃金460万円

条例改正
老人保健事業・住宅団地事業向特別会計の廃止

承認
22年度一般会計補正歳入の主なもの 町税 1億円 増額
歳出の主なもの 基金 1億7650万円増額
国民健康保険特別会計 722万円減額
老人保健事業特別会計 838万円増額
介護保険事業特別会計 6180万円減額
後期高齢者医療事業 1600万円減額
住宅団地事業 3月31日 廃止精算
芹谷栗栖地域振興事業 642万円減額
下水道事業特別会計 1400万円減額
23年度一般会計補正 被災者支援102万円
国民健康保険税条例
国民健康保険条例
非常勤職員の育児休暇に関する条例

請願
請願第1号
県道多賀醒ヶ井線の道路改良、冬季の除雪対策、芹川浚渫など。
意見書の要旨
芹谷地域の振興対策は、まずは道路整備からである。推進プランに定める社会資本整備に関して地域の意見、要望を具体化し、早急に実現されるよう要望する。
1、道路拡幅崩落防止対策
2、冬の積雪寒冷対策
3、芹川の浚渫

意見書の要旨
県道水谷彦根線の2車線の道路改良の要望
請願第2号
意見書の要旨
県道水谷彦根線は、現在狭小で朝夕の自動車の往來に支障をきたしている。
国道8号や中仙道のバイパス道路として2車線化の道路改良を要望する。

23年度に繰り越しされた事業 (千円)

一般会計 合計	127,493
公有財産調査事業	11,970
住宅リフォーム促進事業	6,000
久徳中川原線道路改良事業	69,261
尺仏川相線法面対策事業	22,017
四手防災備蓄施設整備事業	8,000
スクールバス購入事業	8,719
胎藏庵聖観音像修理事業	1,526
水道事業特別 会計	375,500
南後谷浄水場改良工事	520,000
南後谷老朽管布設替工事	120,000
梨ノ木地区老朽管布設替工事	200,000
多賀地区配水管布設工事	82,500
大谷配水池新設工事	150,000
大谷配水池場内配管工事	35,000
敏満寺浄水場内布設替工事	24,000
合計	502,993

請負契約
中学校ランチルーム建築
請負者
彦根市 (株)伊藤組
1億5370万円

推薦
農業委員会委員
高尾 喜多喜代美氏 51歳
栗栖 栗本 泉氏 56歳



ランチルームのイメージ図

産業建設

県道水谷彦根線 2車線化など 請願書採択



県道 水谷彦根線(下水谷地先)

6月14日、付託を受けた請願第1号、請願第2号の審査をした。
請願書の紹介議員の出席を求め、主旨説明を受けた。
請願第1号は、委員全員賛成で採択し、委員会発議で意見書の提案を決定。
請願第2号は、質疑のあと県の方針が20日に決定することなど、委員長が紹介議員の意見も聞き、全員賛成で継続審査とした。

請願第1号要旨
「県道多賀醒ヶ井線」狭小曲折区間の道路改良などに関する請願書
「県道水谷彦根線」道路改良工事2車線化の請願書

- 下村区長 菅森照雄
中村区長 藤本健次
宮前区長 藤本久由
炭原区長 藤本長雄
- 水没部会長 門川康夫
水没部副会長 谷口俊夫
- 多賀水谷・米原のバイパス道路として重要である。2車線化の意見書を県に提出願いたい。

多賀醒ヶ井線は、芹谷地区住民の生活道路である。また河内風穴を訪れる観光用道路である。

- 次の事項を意見書として、県に提出願いたい。
1. 道路拡幅対策
 2. 落石崩落対策
 3. 冬季の除雪対策
 4. 芹川の浚渫工事

請願第2号要旨
「県道水谷彦根線」道路改良工事2車線化の請願書

4月28日には15車線で早く進めて欲しいと言っていたが変更の理由は、
2車線化への変更経緯はわからない。

主要道路であり、彦根、米原(番場)まで2車線の要望を願いたい。

2車線の方が良いが県の判断によってはさらに道路整備が遅れる。

5年以内の事業でありこの期間では困難か。20日に県の方針がでる。

本会議で
継続審査を否決

請願第2号「県道水谷彦根線2車線化」は、委員長報告では「継続審査」としたが本会議で賛成少数で否決。
議事日程を変更し、再度委員会を開催。
県の方針が6月20日に決定しなかった。
水没部会長、副部会長の連名であり地元住民の総意を尊重。
意見書を可決し、県に提出した。



県道 多賀醒ヶ井線(炭原地先)

所管事務調査 地域整備課

5月9日、23年度建設事業、芹谷粟栖振興事業、上水道事業、湖東土木事務所所管事業の説明を受け、現地視察後に質疑をした。

- ほかに各集落からの要望事項はあるのか。
補修的な要望が多い。別に900万円の予算で対応する。
- 町道小森池線は、25年完了と聞いているが、何回も説明しているが、中川原久徳線などの完了後引き続き進めていく。
- 町道多賀月ノ木線は、多賀区と協議し、できることから進める。
- 敏満寺地先の上水道布設替工事を4工区に分割した理由は、
当道路は重要アクセス道路であり、分割発注で短期間で完成させたい。
- 仏ヶ後浄水場の水源は表流水であり、原発事故などで問題がある。芹川左岸での掘削は、計画も終り施工中で変更できない。広域で他施設でまかなえる。
- 四手川の河川事業、芹川の河床の樹木伐採事業の状況は、
県が予算を繰り越している。近く工事に入る予定である。
- 水谷地区の排水路計画があるが現況でも工事車両の進入などに問題がある。
先にバイパス道路を。パイパスは県事業である。排水路計画は進める。



久徳中川原線一部開通(中川原地先)



南後谷浄水場(硬度処理施設)

町・地域整備課所管			
	路線名等	施工場所	概要
建設/芹谷・栗栖振興	久徳中川原線	中川原・月ノ木	道路改良舗装
	小森池線	富之尾	取付道路
	多賀月ノ木線	多賀	道路改良工事
	北坂池造線	小原	擁壁水路
	八重練地区	八重練	里道舗装
	栗栖地区	栗栖	里道舗装
	敏満寺地区	敏満寺	里道舗装
	佐目南後谷線	南後谷	ガードレール布設替
	県道水谷彦根線	上水谷	集落排水路整備
	県道水谷彦根線	下水谷	急傾斜地崩壊対策
上水道関係	大谷第2排水池新設工事	敏満寺	舗装工事
	町道小森池線	富之尾	配水管布設工事
	新仏ヶ後浄水場	仏ヶ後	造成新築工事
	大杉地区	大杉	配水管布設替工事
	敏満寺・守野地区	守野	配水管布設替工事
	佐目敏満寺線	藤瀬	舗装本復旧工事
	多賀月ノ木線	多賀・月ノ木	舗装本復旧工事
	南後谷浄水場取付道路	南後谷	舗装本復旧工事

湖東土木事務所所管			
	路線・河川名等	施工場所	概要
土木事業	国307号線	敏満寺	椿坂擁壁230m
	国306号線	佐目	佐目トンネル東側ボックスカルバート
	四手川	久徳	設岸工 28.0m
	芹川	中川原・久徳	河道内立木伐採
	赤田川	久徳	設岸工 50.0m
	太田川	多賀	設岸工 20.0m
	木曾滝谷	木曾	(砂防)堰堤2基
	大杉川	大杉	(砂防)舗装・補修・モリタル吹付
	萱原地区	萱原	(砂防)立木調査測量
	細谷	佐目	(砂防)土質調査・立木調査
萱原地区	萱原	(砂防)擁壁工	

芹谷地域振興事務所所管			
	路線・河川名等	施工場所	概要
土木事業	急傾斜地	上水谷	急傾斜地崩壊対策
	多賀醒ヶ井線	下水谷	家屋調査
	多賀醒ヶ井線	屏風	道路改良
	多賀醒ヶ井線	甲頭倉	用地補償



原子力発電事故の対応は 防災体制の整備が 必要と認識

—町長—

川添 武史 議員

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、世界観測史上最大級の地震で東北地方に甚大な被害を与えた。

この地震によつて福島原子力発電所では、放射線物質が放出されるといふ重大な原子力発電事故が発生し、広範囲の住民に避難指示がされた。

福井県敦賀市周辺は、原発銀座といわれるように15基の原子力施設が林立しており、一度事故を起こせば大変な事態になりかねない。

彦根市をはじめ隣接4市は事業者に対し、緊急申入れをされているが、本町は、どのような対応を考えているのか。

町長

本町も、放射性物質の拡散予測など専門的技術の情報などを收受し、県の計画や近隣自治体との整合性をとり、防災計画を見直していく。

また、稼働中の原子力発電の安全確保が担保できるよう町村会で歩調を合わせ、関係機関とともに申し入れをしている。

指定避難場所の整備を

琵琶湖西岸断層による地震に対して本町も改めて対策を考えるべきである。

集落の上流部に点在するダムやため池など災害を増大させる要因の施設の強度調査を再度すべきである。

指定避難場所の施設も耐震化ができていない。

関係者と協議

町長

あらゆる災害を想定した避難場所のあり方、点在するダムやため池など災害を増大させる要因の施設など防災対策として取り組むべきものは関係者とともに検討する。



敦賀原子力発電所

原発依存から 自然エネルギーへ

一気に転換は困難

—町長—

山口 久男 議員

本町の防災計画は、原発事故を想定したものにない。防災計画の見直しは、

原発依存から脱却し、太陽光、地熱、風力、水

バイオマスなどの再生可能エネルギーへの転換を決定し、実行プランを策定すべきである。

社会のあり方として、低エネルギー社会への転換が急務ではないか。

本町は、間伐材などをエネルギー資源として活用できる環境にあり、木質チップ・ペレットの生産を町の基幹産業に位置づけること。また木質バイオマスエネルギーの利用促進計画はどうか。



町長

原子力政策の安全神話が崩壊した現在、安全安心なエネルギー発電への転換を考えていかなければならないことは重要なことと思っている。

今日の産業の生産構造や生活様式から一気に転換することは困難であり、町村会などの組織での協議など踏まえて対応したい。

また、里山整備の推進などにより発生した木材などをバイオマスとして有効利用するなどの、本町の新たな産業の一つとして根付くような取り組みも、関係者のご意見を聞きながら検討したい。

安心・安全で

豊かな給食を

- 調理業務委託に当たっては、学校給食法の趣旨を徹底させ、文科省の『学校給食衛生管理基準』を厳格に守らせ、安心・安全で豊かな給食をするために、以下の点を問う。
- 1) 調理業務委託契約は、
 - 2) 衛生管理マニュアルは、
 - 3) 地元産による食材を、
 - 4) 給食予約システムは、
 - 5) 食育の取り組みは、
 - 6) 試食会、施設見学は、
 - 7) 保護者への情報提供は、
 - 8) 給食運営体制など一日も早く体制整備を望む。

万全の準備を

整えていく

教育次長

計画は、調理施設を持たない二次処理的なランチルーム建設であり、民間委託方式で計画。

項目については調理委託業者をはじめ、生徒の健康と食生活の向上、充実、豊かな給食を実施するため、運営体制や食育推進協議会を立ち上げ、食育推進計画の中で体制を整備し協議を進める。

利用料を300円に

乗合タクシーについて、利用方法などの改善、充実、利便性向上策や利用料金を一律300円程度にすることや、既存の交通機関との接続など見直しが必要である。

更なる構築で

企画課長

運行を開始して日も浅く、住民にご不便をかけ

ダム周辺の県道・林道の 改良整備を 秋以降に施工する

富永 勉 議員

—町長—

ているところもあるかと思うが、1市4町での湖東定住自立圏組織の中で運行している。今後も路線バスを含め、より良い公共交通ネットワークを構築できるよう進めていきたい。



県道多賀永源寺線崩落現場

去る5月の大雨によつて、犬上ダム湖付近の道路が崩落した。

今は貯水量も多く、渇水期までは復旧工事もできないため、完全通行止めとなっている。

この影響により迂回路は林道と聞いているが、今にも崩れそうな危険箇所が多い。

早急にダム周辺の県道、林道の調査、改良が必要である。どのような対応を考えているのか。

町長

林道下山線は、当該県道と同時期に一部路肩が欠損し、現在、大型車の通行はできない。県道の復旧工事と同様、秋頃に計画している。

林道は、国・県・町道といった一般の公道とは異なり、林業の用に供することを目的として開設されたものである。道路構造自体も一般の公道とは異なった設計となっている。

目的外の通行は、遠慮願いたい。



犬上ダム水力発電所



教育長の教育指針は 信頼される学校・ 園づくりを

—教育長—

大橋 富造 議員

4月1日に教育長に任命され、ようやく教育現場の実態も把握できた頃と思う。
新教育長の教育指針は、

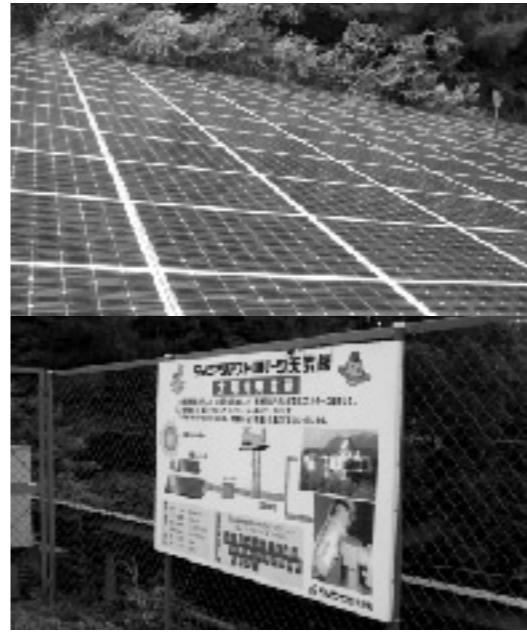
教育長

- (1) 幼児・児童・生徒の一人ひとりに確かな学力を育む教育を充実すること。
- (2) 生涯にわたって健康に過ごすことができる健康やかな体を育む教育を充実すること。
- (3) 豊かな心を育む教育を充実すること。

学校教育全般を通して、道徳教育を推進し、様々な体験活動をさせ、社会生活のルールや社会性を身につけるとともに、

産業環境課長
現在、湖東地域一般廃棄物処理広域化事業促進協議会において、一般廃棄物処理に係る広域処理の協議を行っているところであり、その中でリサイクル施設の設置も含め

協議をしている。
今後、改めて粗大ゴミの処分・収集のあり方を検討したい。
地域の皆様には、ご理解とご協力を願いたい。



太陽光発電(天究館)

自然エネルギー利用 の取組みと助成は 地域資源の利活用を

—町長—

本多重男 議員



福島県原発事故の影響を受け、原子力から自然エネルギーや再生可能なエネルギーの活用に必要な期待が寄せられている。
太陽光・風力・地熱・バイオマスなど関心が高まっている。
国は、太陽光発電を将来の基幹電力と位置づけ、積極的な推進を図っていくようである。
本町においても個人・法人を含め、利用促進に対する取り組みの支援や助成などの考えは。
また、数年前より取り組んでいるバイオマスタウン構想の進捗状況と成果はどうなのか。

町長
現時点では太陽光発電や木質チップの利用、木炭の利用などがあげられる。
太陽光発電以外は、あまり着目されず、その利用も一部に留まっている。
現時点では助成制度や支援は行っていない。
本町は、再生可能な資源を積極的に利活用する取り組みを進めていく計画である。
その一つの環境保全意識啓発事業では、住民参加による生ゴミの分別や廃食油の回収、公共施設でのペレットストーブの利用など目に見える形の取り組みを通し、ゴミの減量に取り組む。

中学校敷地内の樹木整備
学門坂を徒歩で通学する両側には桜、さつき、もみじなどが生徒の目をうるわしてくれている。
しかし、近年は樹木の立ち枯れや松食い虫による

被害が目立ってきている。
長年手入れや整備が行き届かない旧寄宿舎の裏側には雑木、雑草が生茂り、管理・整備された状況には程遠いものがある。
野生獣の出没などの要因にもなっている。
生徒の安全面も含め早期伐採整備などの対処を。
環境整備を進めていく教育次長
今年10月1日、2日に「星空の街・あおぞらの街」全国大会が本町で開催され、中学校が会場と計画されている。
松枯れの撤去を含め除草作業などの環境整備を行う予定をしている。
また、整備ができてない箇所なども含めて対処していく。

相手の身になって考えたり、人を思いやる心や感動する豊かな心を育成する教育を大切にしなければならぬと考えている。
心の教育の充実が、学力の定着以前に大切にならなければならないことである。

学校職員の健康管理は
教育を左右する学校職員の健康管理は、大変重要な課題の一つであるが現状ではどうなのか。

夫婦親子、家族、児童生徒と教師、管理職と教師など全ての人間関係において、愛情・感謝が欠如している。
当然の結果としてお互いの間に信頼が不足している。
私は、この「愛情」「感謝」「信頼」を人間の証(あ・か・し)と称して大切にすることを推進したい。

加配教員を要請中
健康面から、できる限り超過勤務にならないように指導している。
保護者への対応の必要性も多くなってきており、町、県教育委員会へも何らかの加配教員の配置を要請している。

学校現場の防災教育は
東日本大震災を教訓に防災教育・訓練についてどう取り組むべきか。

4月に全国瞬時警報システムが導入され、自動的に有線回線を通じ放送が流れる。災害発生時に生徒児童の安全を確保することを優先した対策がとれないか。

一人住まいの家庭が多くなってきている現状は、もはや標準的な生活形態にもなってきており、このことから孤立死ということが多くなるのではないかと危惧している。
人の尊厳を傷つけるよ

孤立死の予防に向けて
一人住まいの家庭が多くなってきている現状は、もはや標準的な生活形態にもなってきており、このことから孤立死ということが多くなるのではないかと危惧している。
人の尊厳を傷つけるよ



粗大ゴミ収集場

粗大ゴミ収集は 地域の理解と協力を

—産業環境課長—

小林 元嗣 議員



本町では、春と秋の2回、日時と場所を指定し粗大ゴミの収集をされている。
特に山間部には、高齢者が多く生活されていることから、指定された場所や限られた時間に行きにくい現状がある。
各集落で粗大ゴミを置く場所の確保と管理ができれば、収集日まで保管しておいて取りに来てもらえないか。



全国瞬時警報システム(衛星アンテナ)

学校の防災設備を 充実させたい

教育長

庁舎で受信された緊急放送が有線を通じ各園・各学校の教室のスピーカーに流され、災害発生時における子どもたちの瞬時の避難行動を可能にするようにしたいと考えている。

網の目を細かくしていく町長
高齢者や障がい者の方など、社会のつながりや日常生活支援が必要な人を地域で支える仕組みを促進するためのネットワーク作りが必要と考える。
「げんき印発信事業」や「暮らし応援サポート事業」の実施について準備を進めている。

今後とも、より一層、地域の協力を得ながら、網の目を細かく、住民と行政の協働による地域でのネットワーク充実、強化に努めていきたい。

今後とも、より一層、地域の協力を得ながら、網の目を細かく、住民と行政の協働による地域でのネットワーク充実、強化に努めていきたい。



集団移転地の処理は 知事言葉に信じる

—町長—

木村 晴彦 議員

多賀地先の芹谷ダム集団移転地は、工業団地に變更になり、本町と県が工場誘致に努力するとなつていて、債務は、3億800万円である。

工場誘致で損失が出た分は県が負担すると説明されている。

県との協議、担保はどのように取れているのか。

町長
県の企業誘致推進室で努力をしていただいている。損失の担保については、知事が県議会の中で誠意を持って対応すると答弁されていることから、その言葉を信じたい。



急傾斜地崩壊対策現場

アクションプランの策定と早期実現を

県の芹谷地域振興推進プランが示され、その後水没地区各戸の家屋改修の査定額が示された。

本町が策定する生活再建、地域再生のための地域振興アクションプランは、水没地区の皆さんの家庭の実情に応じた生活再建が図られ、かつ生活再建の選択ができる選択肢をアクションプランに明記すべきである。

具体的な事業工程を地元と協議し、水没地区の再生を成し遂げる必要がある。

町長
最優先課題である改築支援、家屋に関連する社会資本整備についてのプランを定め、順次事業実施している。

「安心して住み続けられる地域づくり」「生き

地域の要望を 県と協議する

本町の防災への取り組みの一つとして、幹線道路に架かる橋梁の耐震補強の進捗は、

1)平成20年・21年度で修繕計画書の策定対象となる橋梁25基の点検調査の結果はどうか。

2)平成22年度に外部委託による橋梁点検の結果はどうか。

3)平成23年度の計画と併せて、24年度には長寿命化修繕計画策定は、

ダム中止後の 諸問題は 県と連携して

—町長—

土田 一善 議員

がいを持つて暮らせる地域づくり」を促進し、周辺地域を含む両地域では遅れている生活基盤の整備策や道路、上下水道、防災、防犯施設、獣害対策施設、共同作業所、山林管理用道路、森林環境整備など、地元の意見を聞き、県とともに検討、協議を重ね実施したい。

企業誘致の現状は

住宅団地から工業団地に変更された。工場誘致の推進状況は。

優良企業の誘致

町長
県の企業誘致推進室や芹谷地域振興事務所と連携を進めていく。

数件の問い合わせがある。

生活再建、地域振興の取り組みは

アクションプランを策定し推進

地域整備課長
地域住民からの要望事項に基づき、素案を提示県と協議の上、整ったものから追加、推進する。

家屋改修の進捗状況は

補修を求めているも工事にかかれぬと聞くが、

順次改修されている

地域整備課長
すでに改修工事に取りかかっている。

東日本大震災の影響で資材不足もあつたが、現段階では問題ない。

借入金の担保は県に

借入金は県が責任を持つべきである。

町長の考えは。

県は誠意を持って対処

町長
県に強く要望している。

1日も早い企業誘致が先決、県と連携して進める。

町道尺仏川相線は

本年1月臨時議会で改良工事の補正予算を議決した。工事の状況は。

遅れているが 早期に完了したい

地域整備課長
以前から山林の所有者と町道との境界について問題があつた。

今回関係者の立会いのもと官民境界の確認作業を実施し前進している。遅れを取り戻し、早期に事業を完了したい。

町職員に町章を

町職員に町章を公費で貸与せよ。

全ての職員に貸与

総務課長
行政職員採用時に襟章を貸与している。

通学路の実態検証と対策は

歩道のない通学路など危険な箇所が多い。

教育委員会として、学校と共に安全な対策、改善を実施すべきと思うが。

地域ぐるみの「学級安全体制」整備

教育次長
平成18年度に各小学校PTAと地域教育力推進協議会が防犯マップを作成し、危険性の高いところを地図上に落とし配布した。

特に車道と歩道の区別がつきにくい道幅の狭い区間が多く存在している。

早急に危険箇所の調査を行い、事故防止に取り組んでいきたい。

橋梁の耐震補強の進捗は 計画的に対策を講じていく

—地域整備課長—

北川 久二 議員



本町の防災への取り組みの一つとして、幹線道路に架かる橋梁の耐震補強の進捗は、

1)平成20年・21年度で修繕計画書の策定対象となる橋梁25基の点検調査の結果はどうか。

2)平成22年度に外部委託による橋梁点検の結果はどうか。

3)平成23年度の計画と併せて、24年度には長寿命化修繕計画策定は、

地域整備課長

平成22年度に外部委託により町内の全橋梁137橋について橋梁点検を実施し、この内10m以上の38橋梁について長寿命化修繕計画も併せて策定した。

町内の全ての橋梁は、耐震対策を実施したものはなく、最新の基準は平成14年の基準で、比較的新しい月之木大橋でも平成8年の基準での耐震構造となっており、それ以

上水道の水源確保に向けて

隣接する彦根市では、野田山地先に配水池の工事が着工されている。

この配水池は、本町に隣接する位置であり、本町の水源に余裕もなく、緊急時の水源確保のためにも、彦根市からの一部

彦根市に要望したい

利用などについて協議を進めるべきと思うが。

町長
地震や災害などによる大規模漏水などで給水停止しなければならぬ事態が発生した場合に、彦根市の水を使わせていただくことは大変有効な手段と考える。

緊急時に受水できるような具体的な給水可能水量、接続方法、接続位置など、周辺の管路整備を含めて検討したい。



銭取橋「橋桁」



町道 尺仏川相線改良工事

4者共栄を柱に

工場長 黒石幸男
当社の経営理念は、一言で表すと「4者共栄」です。

高品質、高使用価値の製品、サービスをフードサービス業界に提供することを通じ、「取引先とユーザー」のお役に立ち、「株主と会社」に利益をもたらし、「社員とその家族」を幸せにすると同時に、「地域社会」に貢献し、社会に信頼され、発展する企業を目指しております。

主な製品は、旅館、居酒屋などでよく見かけられるアルコール固形燃料を始め、業務用洗剤、洗浄剤、殺菌、漂白剤、アルコール製剤などです。

多賀町と一昨年6月に緊急時のアルコール固形燃料の供給を行うべく「災害時における物資供給に関する協定書」を結ばせて頂いております。本年6月から資質向上、リーダー養成を目的に行政との交流も含め、「産官合同研修会」に参加させて頂いております。



(株)ニイタカ びわ湖工場

第6回

たがととも尼

(株)ニイタカ びわ湖工場

星空にロマンを

当びわ湖工場は、「びわ湖東部中核工業団地」ができると同時に1997年10月竣工、現在に至っております。

私は、神奈川県から3年前に当工場に赴任してまいりました。

当初は、大雪が多くびつくり致しました。

自然豊かで、星空は美しく、多賀大社、河内の風穴、多賀ソバなど風光

明媚な町です。

今年、「星空の街、あおぞらの街」全国大会が10月開催と非常に楽しみにしております。

また、これに先立ち8月にNHK朝のラジオ体操の生放送があるなど、これからも多賀町の皆様とともに豊かな自然を守り、「4者共栄」の経営理念のもと励んでまいります。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



健康管理にむけての朝の体操

編集後記

福島原発事故の影響を受け、国のエネルギー政策の見直しと電力不足に対する節電が大きな課題となっている。

この夏の電力不足を補うため、企業、家庭、自治体が一体となった節電、省エネ対策が採られている。本町の新たな取り組みの中で6月にはアサガオの苗550本が無料配布され、すくすくと育っているようです。

これらは植物による「緑のカーテン」づくりの一環として推進された事業です。今まさに私達人一人ひとりの生き方や生活様式が問われているときではないでしょうか。

今夏も厳しい暑さの中で互いに知恵と工夫で乗りきりたいものです。

本多 重男 記